

赤ちゃんはどのように音楽を表現するのか？

第4回赤ちゃんフォーラム

梶川祥世 ●脳科学研究所助教



学内外から集まった参加者のみなさん。子どもたちも参加して、幼少からの音楽教育に対する関心の高さをうかがわせた

ではなく、植物や石などの自然物に触れることで子どもたちは自ら意味を見出していくようになります。子どもたちの創造力を伸ばすためには、こうした、意味を見出すことのできる環境を用意すること、子どもの行動を大人が見逃さず、反応してあげることが大切です。子どもが何気なく出した音を大人が模倣して返すことにより、子どもは自分の出す音に注意を向け、聴くことができるようになります。そして、このような子どもと大人のやりとりが発展して、即興演奏のような面白いかたちにどんどん広がっていくのです。

「音楽する」ためには、外の現象を感じとる五感、様々なイメージを操作する能力、身体で表現する能力が必要になります。物からイメージをふくらませる、人との関わりから自分の行動や周りの環境に目を向けるなど、日常の総合的な経験が、子どもの表現の始まりを支えることになるのです。

このような考えを背景に、先生は親子教室において子どもへの働きかけ方を教授し、実践されています。

この講演では、まず、赤ちゃんの音楽を聴く能力や好みについて、生後一年間の発達を豊富な実験データを基に解説していただきました。

赤ちゃんは、四カ月頃までは協和音を不協和音よりも好んで聞きたがるように、生まれついた好みを示しますが、六カ月以降に新しく珍しい音への興味が出てきて、一歳までにはそれぞれの文化の影響が好みに表れてくるそうです。

三〇組の親子による歌や楽器を使った遊びを〇歳から三歳まで継続観察した研究からは、各ペアの音楽行動がダイナミックに変化していく様子をお話いただきました。

〇歳前半には親子ばらばらであった音出しが、〇歳後半に赤ちゃんの姿勢制御が発達し、楽器(モノ)のコントロールが上達するのに合わせて、親子のタイミングが一致していくことが明らかになりました。

こうした音楽遊びは、言葉がまだ十分に出てこない〇歳代でも、タイ

ミングを合わせたり交互に鳴らすやりとりを楽しんだりすることで、コミュニケーションの基礎力を育てる助けになります。

そして音楽教育という観点からは、発達時期に合わせた目標を設定すると同時に、音楽表出の大きな個人差を踏まえた考慮が重要であることが示唆されました。

フォーラムには、学内外の研究者や「玉川赤ちゃんラボ」会員の保護者の方と子どもたち、他一般の方々にも多数ご参加いただきました。

「子どもの創造性を育てるといって観点から、テレビ視聴は是か否か」「子どもの音楽発達を促すためにはどのようなことをしたらよいのか」などの質疑がフロアから投げかけられ、先生方が丁寧に、また熱く答えてくださいました。

「玉川赤ちゃんラボ」は設立から五年経ち、この間に言語や認知の発達に関する科学的な研究成果を発表してきています。今後も、教育や子育てにおける応用を念頭においていた基礎研究をますます充実させていきたいと、フォーラムを終えて改めて強く感じました。



今川恭子先生
立教女学院短期大学
准教授。
家庭や保育現場での
フィールドワークにも
とついで、乳幼児
たちの音世界を紹介
された



二藤宏美先生
ヤマハ音楽振興会音
楽研究所研究員。
親に歌や楽器で遊ん
でもらう中で、幼児
たちにどのような音
楽的発達がみられる
かについて話された

一月二六日に、脳科学研究所言語情報研究施設主催「第四回赤ちゃんフォーラム」が開催されました。「赤ちゃんフォーラム」は、乳幼児の発達に関する国内外の研究者による講演会で、毎年行われています。

今回のフォーラムでは、赤ちゃん

の様々な発達のうち、特に音楽能力に焦点を当てました。音楽は、言語と並んでヒトのみに備わったコミュニケーション方法であり、赤ちゃんの発達においても重要な役割を果たしています。

そこで、赤ちゃんの音楽能力や創

造性がどのように発達するのか、周囲の大人はどのように働きかければその力を伸ばしていくことができるのか、という問題について、音楽発達の研究を行いながら教育現場への応用にも携わっておられるお二人の先生をお招きして、講演を行いました。

子どもたちの音世界

―生活に芽える創造性―
今川恭子

今川先生は音楽教育者の立場から、幼稚園に通い子どもたちの音楽行動の観察を始め、「音楽表現における創造性の発達を知るためには、子どもたちの『音楽的な活動(歌う、楽器を演奏するなど)』に限定せず、彼らの生活場面に立って、もっと広い範囲の現象をみる」ことが必要であると考えられました。

たとえば幼稚園では、園庭にある竹林で遊び、雨の日には竹に耳を当てて音を聴いてみます。その行動は、音のイメージを持つこと、音から様々な想像をめぐらすことにつながるのです。

楽器のように特定の音楽行動を引き出すことを意図して作られたもの